

学びの実感を積み重ねる子ども発見！

小学校「体育科」1年

「楽しい遊び方を追究する中で友達のよさを発見し、新たな動きに挑戦しようとする」姿

単元名 「マットランドで遊ぼう」

(マットを使った運動遊び) 【4/6時】

本時の目標 グループで互いの動きを見合いながら新たな場での遊びに挑戦することを通して、友達のよい動きや新しい遊び方を見付けることができる。
(運動についての思考・判断)

本時の授業について

子どもは、前時までに「ごろごろランド」「バランスランド」において基本的な転がる、体を支える動きを楽しんできました。本時の導入では、基本となる動きをゲーム形式で行い、子どもが楽しみながら取り組む様子が見られました。その後、5つのグループに分かれて、これまで経験した動きを生かしながら「どきどきとびこし」「さかみちごろごろ」「トンネルくぐり」「なかよしごろごろ」「かにさんばしご」の5つの新しい場での遊びを楽しみました。

今までと少し違う場が設定されていることで、「こうすればいいんじゃないかな」「こうするともっと楽しいよ」等、自然に動きを工夫しようとする姿が見られました。最後に振り返りを行い、本時の学びを確認しました。子どもは体を動かすことの楽しさを存分に味わいながら、新たな動きに挑戦していきました。

運動の楽しさに触れ、できる感覚をつかむための導入

単元の初めでの子どもは、手や背中中で体を支持することやいろいろな転がり方をすることに対し、難しさや思い通りに動くことができないもどかしさを感じていました。本時では「揺れる感じが分かってきた」「ぴんと伸ばせるようになったよ」等、手や背中中で体を支持する感覚や転がる感覚が身に付いてきたことを実感する姿がありました。また、「前より疲れなくなった」「簡単にできるようになった」等、自身の技能や体力の高まりを感じる姿もありました。

田中先生は、単元構想の段階で、子どもの実態を捉え、いろいろな動物の動きをまねしながら、主に手で体を支持する感覚を身に付けることができるよう、毎時間の初めに「あざらし→いぬ→くま→にんげん」と進化していく「進化ゲーム」を取り入れました。ジャンケンで勝つと進化できるという要素を取り入れることで、楽しみながら運動量も確保できるようにしました。また、補助運動として行う「ゆりかご」「スカイツリー」では、子どもの活動を確実に見取り、できていない子どもにはアドバイスしたり補助したりしました。

このように、導入場面で全ての子どもが「できる」活動を取り入れることや、補助等により全ての子どもに「できる」感覚をつかませることで、次の活動への意欲が高まりました。スモールステップで学びの実感を積み重ねることは、体育科の目標の一つである「生涯にわたって運動に親しむ」ことにつながります。

速く動けるようになったよー。

一人一人の学びの状況を丁寧に見取ることが大切です。



こういう感じの遊びをやってみようよ。

各コーナーには基本的な遊び方が示されています。これは、子どもにとって、新しい遊び方、もっと楽しい遊び方を考えるための材料となります。



あれ？うまく回れないよ。どうなっているのかな？

なんかねじれちゃってるよ。「せーの」で一緒に回り始めればうまくいくんじゃないかな。

子どもは考えた遊び方をすぐに試してみました。しかし、うまくできているかどうか自分では分かりません。すると、グループの友達が気付いたことを教えてくれました。友達のアドバイスを参考にもう1回やってみるとうまく回ることができました。このように、活動の中で自然に子ども同士の関わり合いが行われています。これは、田中先生が日々の授業の中で「友達と仲良く運動すること」や「友達のよさを見付けること」等の指導を積み上げてきた結果です。

学びの振り返り

発表者のとも子さんに寄り添いながら、貴司さんと裕一さんがどのように感じているか、また、全ての子どもが友達のよさを共有できているかを子どもの表情から見取っています。

田中先生は、「よい動きを共有する」場面と「自分の学びを振り返る」場面を設定しました。一人一人が見付けた友達のよい動きを発表することで、活動中は気付かなかった友達のよい動きや新しい遊び方を共有しました。

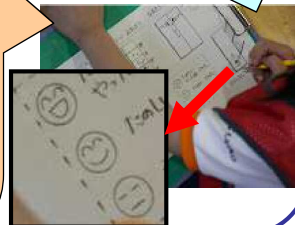
また、「友達のよい動きや新しい遊び方を見付ける」という視点を明確に示したことにより、一人一人が目標に沿って本時の学びを振り返ることができました。子どもからは、「貴司さんたちと同じ動きをしてみたい」「もっと楽しい動きを考えたい」等の意見が出され、次時への意欲を高めていました。



貴司さんと裕一さんは手をつないで前転がりをして楽しそうでした。

新しい遊び方が見付かったよ。にっこり笑顔にしよう。

顔の表情を選んで振り返ることで、全ての子どもが自分の思いを表現できるよう工夫されています。



「友達と関わり合う中で、どの子どもできる喜びを味わい目標の達成に向かう」姿

単元名
本時の目標

「水泳」(背泳ぎ1/3)【4/12時】
体を水平に保つポイントを意識し、仲間を補助したり助言したりする活動を通して、自己の課題に応じた背浮きや背浮きキックの練習方法を選択できる。(運動についての思考・判断)

本時の授業について

本時は、友達と援助し合いながら、仰向けで背中を伸ばすことや、水平に浮き、その状態でキックする等、背泳ぎの特性に応じた練習方法を考える授業です。加瀬先生は、安全や見学者の役割を確認した後、導入で、いろいろな姿勢で浮く感覚を体験させました。次に、浮いている写真と腰が曲がって沈んでいく写真を提示・比較させ、相違点を子ども同士で出し合いました。子どもは、ここから出された「腰を伸ばして体を水平にする」「リラックスして胸を張る」「水に耳を付けて顎を上げる」の三つのポイントを全体で確認しました。その後ペアで背浮きの練習をする際、相手の体を支えて補助したり、水平に浮くために必要なアドバイスをしたりすることができるようになりました。

その後も子どもは、ペアでの話し合いを基に、泳ぎを確認しながら背浮きキック、両手伸ばしキック、片手背浮きキック等、難易度別の泳ぎを選択して取り組みました。この時教師は、困っている子どもへの支援をしたり、水に耳をつけて顎を上げられるようになった子どもを紹介したりして背泳ぎのポイントを再確認しました。

終末では、本時の学びを子ども自身が実感できるように、チャレンジタイムとして難易度別の泳ぎに挑戦する場の設定をしました。

本時では、子ども同士が互いの学習を援助することで、課題に応じた方法で練習したり、友達と学びを深め合ったりしました。

「分かった」「できた」が生まれる

導入段階での光さん

怖くてすぐに立ってしまふよ。どうしたら浮くことができるの？

【共通確認したポイント】
①腰を伸ばして体を水平にする
②リラックスして胸を張る
③水に耳を付けて顎をあげる。

純さん

さっきより水平に近い状態で浮くことができたよ。今度は、時々手を離してみるよ。

「深く」感覚を味わい、「できた」を実感したことが、次のステップへの意欲につながっています。

光さん

頭や腰を持ってくれたから、胸を張る感覚やリラックスした状態が分かった！

浮くことができた！今度はキックもやってみよう。

付けたい力の焦点化

加瀬先生は協働的な学びの中で、どの子どもにも「分かった」「できた」を味わわせたいと思っています。しかし、背泳ぎは平泳ぎやクロールと比べると、経験や技能の差が大きい種目です。

そこで、加瀬先生は、どの子どもも達成感が味わえるよう、できることから始めるスモールステップを意識した単元計画を立てました。

本時は、ねらいを「思考・判断」に絞るとともに、浮くためのポイントを意識させた上で、「スモールステップでの関わり合い」を行いました。

こうした加瀬先生の手立てにより、子どもは主体的に課題発見・課題解決に向かって練習に取り組みました。

スモールステップでの関わり合い

いい感じだよ。

これでいい？

いきなり泳ぐのではなく、ペアでストロークの確認をするプロセスを踏んでいるので、ビート板を使った練習にスムーズにつながります。

ストロークはしっかり意識しているけど、少し腰が曲がってる感じがするよ。

こんな感じかなあ。

関わり合いの中で、学習内容を身に付ける手立ての工夫

全員で確認した三つのポイントを基に、純さんが光さんに課題を伝えていきます。初めは頭を持って補助していましたが、光さんの足が沈んでしまうので、横から腰を支える補助にしました。練習をしていくと、光さんは「浮く」感覚を実感し、満面の笑みで「できた」「浮くてこんな感じなんだ」と純さんと共に喜んでいました。ここでは、光さんが学習内容を確実に身に付けていくとともに、補助の純さんも、ポイントへの理解を深めることができました。この学びが「次はキックで進みたい」という思いを生み出しました。

加瀬先生は、右の学習カードを提示して、子どもが見通しを持ち安心して取り組むように、スモールステップの段階を示しました。援助し合う関わり合いの中で、どの子どもも自分の学習段階や課題を把握し、常に課題を意識した練習ができました。

全員でポイントを確認したこと、目的を持って友達の学習を援助する関わり合いをしたことによって、光さんと純さんは各々の課題を発見し解決に向かうことができました。先生の仕掛けがあったからこそ、「分かった」「できた」喜びを味わうことができたのです。

【段階別学習カード】

レベル5 (難易度高)

レベル4 (難易度中)

レベル3 (難易度低)

レベル2 (初歩)

レベル1 (初級)